

令和5年度（第25回）神原文庫展：「神原文庫」と香川大学初代学長神原甚造の人物像 出展品リストと略解説

※『目録』は『神原文庫分類目録』（1964年）、『続目録』は『神原文庫分類目録（続）』（1994年）を指す。

第1部 神原先生の生い立ちと青年期の文学作品

1. おもひでの記：神原甚造 13紙【『続目録』289.1】

同じタイトルで『月刊香川』（昭和26年6月号）に発表した文章の草稿本で、香川大学の罫紙を使用している。神原先生自身の生い立ちについて記すなかで、とくに文字・本に対して非常なまでの強い関心を持ったきっかけを下記のように記している。

私は小学校へ上がる前、祖母から教科書の読本巻の一を教わった。これこそ私が文字と云ふものを知った始めであり、又本と云ふものに親しむに至った抑の端著〔緒〕である。此読本は私の一生に何よりも大きな影響を与えたものであり私を今日に導いた最初の道標でもある。

2. 小学第一読本：明治21年 島崎友輔編 興文社刊 1冊【『続目録』375.98】

神原先生が前掲「1.おもひでの記」で示した、幼少期に祖母から教わったという「読本」の現物である。

3. 菅公一千年祭・未成年者にして新聞紙を読むの可否を論ず

：神原甚造 ※『神原甚造文藻集』（明治末年）1綴【『目録』090】

尋常小学校5年時の作品。なお、前掲「1.おもひでの日記」によると、神原先生は5歳5ヶ月で尋常小学校に入学したという。

4. 神原甚造日記：神原甚造 明治38年4月6日～11月16日【『続目録』289.1】

第三高等学校卒業年の4月から同9月京都帝国大学入学直後の11月までの日記。

5. 「詠草」：「神原甚造文藻集」所収 神原甚造 1綴 ※『神原甚造文藻集』【『目録』090】

神原先生の著作を集めた「神原甚造文藻集」には、『明星』で発表した作品もふくむ多くの作品集が遺されている。これらの作品の整理も課題となっている。

6. 明星：卯年（明治36年）12号 1冊

7. 明星：巳年（明治38年）4号 1冊

8. 明星：午年（明治39年）6号 1冊

神原先生は、第三高等学校在学時から、神原彩翹の名で与謝野鉄幹新詩社『明星』に短歌を発表していた。はじめて掲載したのが、明治36年12月号（展示6）で、同じく第三高校在学の山内垂毗子とともに、本号以降多くの作品を掲載していく。神原先生が『明星』発表した短歌の総数は160首に及ぶ。明治38年4月号（展示7）に上原彩人の名で掲載した「となり家の珠数屋が妻のくちまめをよしと住む身と問はば云はまし」は、明治39年6月号（展示8）にて、与謝野晶子から好評を得ている。

9. 漫筆 神原甚造日記：神原甚造 大正7年1月～2月 1冊 【『続目録』289.1】

夫人スミが大正7年正月6日死去した直後から記された日記。日記の記事は、同月10日から2月19日までの1カ月ほどにわたる。その内容はスミの死を悼む言葉と、生前生活を共にしたことに対する感謝の言葉が繰り返されている。

第2部 神原先生の法曹界での活動

1. 警察犯処罰令疏義：神原甚造 中澤明盛堂刊 1908年 1冊【『目録』326.82】

2. 刑罰論：神原甚造 帝國法政學會出版刊 1913年 1冊【『目録』326.4/2】

明治44年1月～大正2年7月に『法政資料』に連載した洛陽法律学講習会での講義稿本をまとめたもの。

3. 昭和十七年 勲第一等旭日大綬章尾崎行雄不敬事件

：神原甚造 「神原甚造生涯判決記録」所収 1括【『目録』330.98】

神原先生は自身が関わった多くの裁判の関係資料を遺し神原文庫に伝わっている。ここでは、不敬事件として著名な「尾崎行雄不敬事件」の資料を紹介する。東京地裁で有罪判決を受けた尾崎行雄は上告し、神原先生をはじめとした大審院での裁判が進められ無罪となった。なお、興味深いことに、上告した尾崎行雄は、自らの無罪を主張する立場から自身が東條英機へ送った書簡を証拠書類として提示し、神原先生は裁判書類にその書簡を写し取っている。

第3部 神原先生の史資料収集

1. 神原甚造宛図書購入覚並に請求書等：神原甚造編（大正～昭和期）1括【『続目録』289.1】

2. 古資料収集記録帖：神原甚造編（大正～昭和期）1括【『続目録』289.1】

神原文庫には、書籍等の購入記録や領収書・請求書、古書肆との往復などが残されている。なかでも「古資料収集記録帖」は極めて稀有で、各資料を神原先生がいつ、どこから入手したのか、詳細に記録されている。

3. 神原甚造覚書：神原甚造編（大正～昭和期）1括【『続目録』289.1】

神原先生は、購入した書籍などについて、自身の観点からさまざまな考証を行い、メモ書きを残した。その数は多く、神原先生自身が「本屋」・「絵師」・「雑誌」・「出版」などテーマ毎に封筒に分類し整理されている。

第4部 神原文庫の貴重書

1. 古筆手鑑（神原文庫本）：1帖【『続目録』728.8】

一般的に「手鑑」とは、筆跡鑑賞のためにいくつもの聖教（經典）・歌書・消息などからその墨跡の一部を切り取って蒐集し、台紙帖に貼並べたものをいう。内容は、検討の余地があるものも含まれるが、いずれも歴史上著名な人物の墨跡ばかりである。

2. 伊路波：朝鮮版 弘治5年（(明応元年)1492年）1冊【『目録』329.1】

訓民正音（ハングル）が公布されて間もない弘治5年に、朝鮮人のための日本語学習書として刊行された書物。天下の孤本であり、朝鮮にも現存していない。

3. 詠百首和歌：藤原家隆 建保3年（1215）寛正3年（1462）写1冊【『続目録』911.138】

藤原家隆は鎌倉前期の公卿で、新古今和歌集の撰者のひとり。展示品の中世後期の写本は、各諸本のうちでも最も古い部類の写本である。

4. 室町幕府14代将軍足利義輝御内書：戦国時代1紙【『続目録』古文書：(17)書状等1010】

花押（かおう）から室町幕府13代将軍足利義輝の書状であると判断される。内容は、駿河国へ（武田）信虎が下国することをうけて、水野山城守に道中の世話を命じている。

5. 備中国哲多郡神代内検帳

：天正19年（1591）1紙 ※「三戸家文書」のうち【『続目録』古文書：(1)31】

毛利家家臣三戸氏が保持した備中国神代村の所領の検地の内容を毛利家が認定した文書。

6. 毛利輝元安堵状

：（戦国時代）年末詳8月16日1紙 ※「三戸家文書」のうち【『続目録』古文書：(1)80】

安堵状とは、土地所有を保証する公文書。毛利家の当主毛利輝元は、領国内の三戸家の屋敷地の領有について、三戸藤左衛門が相伝することを保証している。

7. 毛利輝元感状：天正10年（1582）1紙 ※「三戸家文書」のうち【『続目録』古文書：(1)29】

感状とは、合戦に参加した将士の戦功を賞して発出される文書のこと。三戸藤左衛門は、「桂左太」（桂左衛門太夫）に在番したことにより、二十貫の所領を与えられた。桂氏は、毛利家の重臣であり、三戸家は桂氏の配下で活動していたことがわかる。

8. 江戸幕府3代将軍徳川家光朱印状：慶安元年（1648）1紙【『続目録』古文書：(5)293】

常陸国筑波郡吉田村熊野権現・鹿島明神に対し、同村分三石を寄付すること、別当寺光蔵院寺中の竹木所役の免除を命じている。現在神原文庫には、本文書をはじめ江戸幕府将軍の朱印状・判物が14点確認できる。

第5部 神原文庫のいろいろ

1. 雷獣之図：阿部正信 天保2年（1831）1巻【『続目録』724.5】

雷獣とは、落雷とともに地上に落ち、雷のような声を発する想像上の怪獣とされてきた。その一方で、各地で目撃情報もたらされ、その情報に取りまとめられた。

2. 讃岐物語：秋山伊豆（江戸末期）1冊【『目録』090.9】

著者の秋山伊豆（秋山巖山）は、江戸時代後期の儒者で文化4年9月1日生まれ、讃岐榎梨神社（現琴平町）の祠官。頼山陽らに学んだ。『西讃府誌』（安政5年）の編集にも携わった。『讃岐物語』は古代・中世の讃岐の政治動向などをまとめている。

3. ヘンリー・ホン・シーボルト書状

：（明治時代前期）9月8日1紙【『続目録』古文書：(17)書状等1027】

ヘンリー・ホン・シーボルトは、著名なフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの息子。本書状の宛所である町田久成は東京国立博物館の設立に尽力した人物である。ここでは、町田久成に対し「考古学之為二」として自身の「著述告書籍」を進呈したことが記されている。

4. 解体新書：杉田玄白【『目録』491.1】

5. 学問のすゝめ（初版本）：福沢諭吉 明治5年1冊【『目録』002】

いわずと知れた歴史的名著の数々である。神原文庫には、展示資料以外にも多くの歴史的名著を所蔵している。

6. THE MOMOTARO：（明治初期）【『続目録』913.8】

英訳された日本の「昔ばなし」である。神原文庫には、絵本も数多く所蔵している。

7. 開化因循興廃鏡：昇斎一景戯画（明治初期）【『続目録』733.35】

明治期ならではの和・洋を対峙させた風刺画。神原文庫所蔵本が、帝国書院『社会科中学生の歴史』に資料として掲載されている。なお、神原文庫本では「開化因循興発鏡」・（「発」は「発」の正字）となっているが、印刷博物館所蔵本などの別版では「開化因循興廃鏡」とされている。本資料の性質からするとやはり「廃」が正しい。おそらく当初は誤った文字が当てられた元版が、のちに改められた可能性がある。